

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年3月28日(日)第Ⅳ主日レント礼拝  
週報「通算第550号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌209「いつくしみ深き」 p. 316

【交読文】 No.5 詩篇第19篇 p. 882

【賛美Ⅱ】 新聖歌399「この身の生くるは」 p. 638

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.1「ビジョン」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書12章12節～18節(新約p. 208)

【礼拝説教】 《エルサレム入場》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ●ポイント1. 「前日の出来事」とは？

※ヨハネの福音書12章1節～3節「ベタニアにおいて」 (新約p.207)

12:1 さて、イエスは過越の祭りの六日前にベタニアに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。

12:2 人々はイエスのために、そこに夕食を用意した。マルタは給仕し、ラザロは、イエスと共に食卓に着いていた人たちの中にいた。

12:3 一方マリアは、純粹で非常に高価なナルドの香油を一リトラ取って、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りで一杯になった。

### ●ポイント2. 「なつめ椰子(しゅろ)の葉」と「ろばの子」の預言とは？

※詩篇118篇26節～27節「恵みに応答する感謝の詩」(旧約p.1059)

118:26 祝福あれ主の御名によって来られる方に。私たちは主の家

からあなたがたを祝福する。

118:27 主こそ神。主は私たちに光を与えられた。枝をもって祭りの行列を組め。祭壇の角の所まで。

※ゼカリア書9章9節「紀元前515年頃の預言」 (旧約p.1621)

9:9 娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたの所に来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。

●ポイント3. なぜ人々が、エルサレムの門に集まったのか？

※ヨハネの福音書11章40節～45節「ラザロのよみがえり」(新約p.206)

11:40 イエスは彼女に言われた。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」

11:41 そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた。「父よ、私の願いを聞いて下さったことを感謝します。」

11:42 あなたはいつでも私の願いを聞いて下さると、私は知っていましたが、周りにいる人たちのために、こう申し上げました。あなたが私を遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。」

11:43 そう言ってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」

11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどこいてやって、帰らせなさい。」

11:45 マリアの所に来ていて、イエスがなさったことを見たユダヤ人の多くが、イエスを信じた。

※ヨハネの福音書11章25節～26節「マルタへの言葉」 (新約p.205)

11:25 イエスは彼女に言われた。「私はよみがえりです。いのちです。私を信じる者は死んでも生きるのです。」

11:26 また、生きていて私を信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」

## ◎先週のメッセージの概要【ダマスコ途上にて】

《今日は、サウロの劇的な改心の場面です。サウロによって、エルサレムにいた十二使徒以外の信徒たちは、ユダヤやサマリア地方へ散らされて行き、またペンテコステの時に救われたディアスポラのユダヤ人たちは、それぞれ自分の国に戻って行きました。アナニアもダマスコに戻り、多くの信者を導いていたそんな時のことです。サウロは、その事を耳にし、大祭司カヤパの許可を受け、ユダヤ兵士と共にダマスコに向かいました。

エルサレムからダマスコまでは、距離にして約240キロ以上有ります。ダマスコまで、あと少しと言う所に来た時、突然、天からの光がサウロの周りを照らしたのです。時刻は、昼を少し回った頃だと伝えられています。「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか」「主よ、あなたはどなたですか」「私は、あなたが迫害しているイエスである。立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならないことが告げられる」

この時、サウロに同行していた兵士たちは、その声を聞いたと有りますが、彼らは主イエスの姿を見ませんでした。しかしサウロは間違いなく、この時、復活の主イエスをはっきりと見たのです。後に、第Iコリント書簡においてパウロ自身、明確にその事を証しているのです。「そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現われて下さいました。」と。

ところで、なぜダマスコなのでしょう。それは、アナニアがいたからです。彼によって迫害者サウロから異邦人の使徒パウロが誕生する為です。目が見えなくなったサウロは、兵士たちによって、ダマスコのユダヤ人の会堂まで手を引かれて連れて行かれます。そこでサウロは、三日間断食しながら祈るのです。この三日間こそが、主イエスが十字架にかかれ、復活されるまでの同じ日数であり、そしてイスカリオテのユダを除く十一使徒たちが、体験したまさに絶望の三日目でもあるのです。しかし、サウロの目には、復活の主イエス様がまぶたに焼き付いていたのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝はイースターとなり、2021年4月4日(日)教会において行ないません。聖書勉強会と祈り会は、3月24日(水)各家庭において行ないません。なお佐野盾一さんにより、YouTubeで、教会の礼拝が見れます。感謝！